

動力源と内燃機関

ここ最近では原材料と半導体等の供給問題で自動車関連の生産に支障をきたしている現状ですが、OICA(国際自動車工業連合会)のデータを参照すると、全世界の自動車の生産・販売は2000年が6千万台、2025年で1億5百万台と四半世紀で1.75倍程度増えると予測され、今後も確実に乗り物が増えると予想されます。

販売・生産上位10ヶ国中、販売より生産が多い国は韓国・日本・泰国・墨国等で、反対に販売が多い国は米国・英国・伯国といったところです。

それらに搭載される動力源はガソリン・ディーゼル等のエンジン(内燃機関)・電動モーター(電動機)・ハイブリッド(内燃+電動)に大別されます。

環境問題もあり、今後は電動車に移行して行くと推測されています。その比率は各団体等が発表する度に増加しています。

ただ、インフラの整備が何処まで出来るか？それによって普及の浸透度は違ってくると思われれます。

オンロードとオフロード

動力源を搭載するのは何もトラック・バスを含む自動車だけではありません。

自動車をオンロードとすると建設機械・産業機械・農業機器・ジェネレータ(発電機)・船舶等がオフロードと言われます。

オン・オフ両方共に動力源が使用されますが、オフロードは電動化になり辛い分野でもあります。

オフロードについて、令和 4 年度に日本企業が世界でエンジン(ガソリン・ディーゼル・ガス)を生産する見通しは 15 百万台弱で、ここ 10 年来変わらずジワリと増加しています。

すぐには内燃機関を電動化することができないのが現状と考えられます。環境問題で、それら内燃機関も燃費効率を伸張してばかりではなく、グリーンビークル(代替燃料車)も開発を同時進行しています。

バイオ燃料・水素燃料等既存技術の延長線上で開発可能なエンジンの早期実用化を目指し各社開発中です。

当社製品について

上述しましたように、世間が言う程に内燃機関が早期に減少して行くと言いきれませんが、

我々は勿論電動機向け商品も開発して行きます。

しかしながら、当社の独創的商品はシール部品です。

また、性能の良い日本製車両並びに内燃機関は全世界に相当な保有台数が存在します。

ますます燃焼効率が向上し、高寿命化して行く内燃機関向け商品に対して、90 年来養ってきた技術力を駆使し、今後も質の良い商品を提供し続けてまいります。